

かしわ



No. 14



あけましておめでとうございます

校長 北村耕一

あけまして おめでとうございます。
平成 28(2016)年がスタートしました。年末年始はどのようなお過ごしでしたか？大掃除や帰省で忙しい日々を過ごされた方、ゆっくり旅行に行かれた方、家族と楽しい団らんを過ごした方…様々な「冬休み」があったと思います。

私は、暮れに普段できない掃除を行い、正月には孫の笑顔に接し、ゆったりした時間の中に身をおくことができました。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。一般的な意味は、「一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということ」です。

私が元旦に立てた「計画」は、趣味の「歩くこと」の計画です。目標に向かって、おおまかですが年間計画を考えました。その計画に基づいて「行動」できるかは、私の健康状態によります。そして「行動」した「結果」得られるものは、「達成感＝満足感」だと思います。

と、ここまで考えて、これは日々の生活・仕事にも共通していることかなと思いました。

「計画」→「行動」→「結果」→「達成感」→新たな「計画」→……

新たな「計画」を考える時に「変化」を加えてステップアップする……。

「今を変えない限り、未来は変わらない」。

この言葉は、かつてラグビーの日本代表を率いたジョン・カウ・ヘッドコーチが、2011年に五郎丸歩選手に話した言葉だそうです。五郎丸選手は2011年からの4年間、エイ・ジョーンズ・ヘッドコーチのもと、先を見ずに一日一日、一瞬一瞬を大切に積み重ね、「今＝現在」を変えた結果、2015年の秋のラグビーワールドカップの日本代表の「結果」となったと話しています。

「計画」から「達成感」を得られたら、次の「計画」を立てるときに、「従来通り＝今」のものから「変える」という発想を持つということを五郎丸選手の言葉から学びました。

平成 28 年は始まったばかりです。元旦は終わりましたが、新たな「計画」を立てる時間はあります。新しい年度に向けて、これから様々なことを考えてみたいと思います。

高等部 職場実習を終えて

教諭 倉内 冬樹

高等部3年生の2名が、高校生活最後の職場実習を無事に終わりました。これまでの実習を通して、社会人として身につけるべきマナーやルールを沢山学ぶことができ、大変貴重な経験になったことと思います。以下は、生徒の感想文から抜粋したものです。

「私は、12月7日から11日まで、久里浜にある住吉書房で職場実習を行いました。主に、朝の清掃や本の品出し、シュリンクとレジフォロー、ポップ作りをやらせてもらいました。一番楽しかったのは、小説やコミックなどを透明な袋に入れるシュリンクという仕事でした。単純な作業の繰り返しですが、一人なのでマイペースでできました。反対に苦労したのは本の品出しで、本の種類を沢山覚えたり、重たい本を持って何往復も運んだり、とても疲れました。短い期間でしたが、今回の職場実習を通して、本屋さんの仕事が大変だとわかりました。今まではお客の立場からしか見ていませんでしたが、裏側の苦労を知り、とても良い経験になりました。」(Aさん)

「私はこの冬、2回職場実習に行きました。大船のファンケルスマイルと、馬堀の海風学園です。ファンケルスマイルでは、サンプルの向きを揃えて20枚まとめる作業を一週間やりました。同じ作業を繰り返しやるのは好きなので、大変でしたが楽しかったです。初対面の時には緊張しましたが、皆さん丁寧に話してくださったので、きちんと理解することができました。私がまとめたサンプルが、お客様に届くと思うと嬉しかったです。海風学園では、主に事務の仕事をしました。パソコンを使っての作業で、ずっと見ていると目が疲れてしまいましたが、職場はとても温かい雰囲気、皆さん親切に仕事を教えてくださり、困った時には助けていただきました。難しかったことは、日誌をそのままパソコンで打ち込む作業で、早書きされた文字を読み取るのが、まるで暗号か何かを解いているみたいでしたが、頑張りました。」(Bさん)



お知らせ

「きこえとことばの相談会」

日時：平成28(2016)年1月31日(日)

10:30～15:30

場所：横須賀市立総合福祉会館5階

※皆様のご来場をお待ちしています。

ろう学校に着任して&新年の抱負

教諭 木村 千春

昨年4月に講師としてこの学校に赴任し、様々な学年の教科を担当させていただいています。そのため、様々な授業の中で子どもたちの多面的な姿を見ることができ、日々新しい発見や驚きがあります。

例えば、他学年と合同の授業では、一対一の授業の時とは違う表情や考え方が見られ、自然と思いやりの言葉が生まれたり、豊かな発想につながることでできていました。また時には、集団活動の中では認めることができずにいた自分自身の失敗も、一対一で向き合くと、冷静に振り返り認めることができてました。

学校生活を通して、授業の時だけではなく休み時間や給食の時間など、様々な場面で子どもたちと関わる中で、一人ひとりの考え方や感じ方はもちろん、聴こえの状態やそれによる伝わりやすい環境の違いを知り、その日その時間の実態に合わせた関わり方を考えていくことの大切さを改めて感じました。また、今子どもが身に付けていこうとする力は、私自身にも求められるのではないかと思います。

例えば、算数の授業では次第に文章問題の内容が複雑になり、読み解く力や想像し創造する力が必要とされ、それぞれの場面に応じた適切な判断が求められます。そのため、たくさん問題を解いたり計算練習をすることも大切ですが、日常生活の中でたくさんの人との触れ合いや、本との出会いを意識してつくることも大切なのではないかと思います。実際に、子どもたちが積極的に友だちの輪を広げて深めようとする姿や、色々な本を手にとって読んだり、読み聞かせを喜ぶ姿を見て、そのように感じ考えさせられました。

一つ一つの授業の中で、子どもたちの「わかった」ことや「できた」ことへの喜びは、何倍にも膨らみ自分自身に戻ってきます。平成27年、子どもたちが教えてくれたことを振り返り、平成28年もまた多くのことを学び歩み続けていくことができたと思います。



教諭 小澤 菜摘

本校に着任し半年が経ちます。児童たちが少しずつ心を開いてくれているなど実感し、毎日喜びを感じながら過ごしています。

私が着任して感じていることは、本校は他の学校と違い少人数で授業を行うので、児童一人ひとりの指導が手厚くできるということがとても魅力的なところだと思います。そのため、児童の個性がとても良く活かされており、その個性を認め合い、協調性も感じられます。

また、本校の児童は皆優しく穏やかです。以前勤めていた職場では、毎日が慌ただしく過ぎ

ていましたが、本校に着任してからは時間の流れさえも穏やかに感じています。

昨年は、本校に慣れること、授業を行うことに視点を置き取り組んでいましたが、今年からは児童の個性や魅力をひきださせてあげる教師ということに着目していきたいと思いこれを新年の抱負としたいと思います。



さて、今年は申年ですね。申年は「申(サル)」が「去る」という意味を表し、「悪いことが去る」や「病が去る」などと良いことや幸せがやってくるという年とする一説があります。昨年を振り返ると、風邪がはやり体調を崩す生徒や教員も多く、全員集まることが難しかった日もありました。今年、申年にちなんで、昨年の悪いものを捨て去り、元気で健康的な一年にしたいと思います。

教諭 最上 裕美

新年あけまして おめでとうございます。

昨年9月に横須賀市立ろう学校に着任して早4ヶ月が過ぎました。この4ヶ月の間に、大きな行事「かしわ祭」が11月にあり、小学部の子どもたちは力を合わせしっかりと舞台を作り上げてくれました。

また12月には、幼稚部さんとの「お楽しみ会」で、限られた時間の中で、「きらきら星」の合奏を仕上げ、すてきな演奏を聞かせてくれました。

「かしわ祭」そして「お楽しみ会」のどちらも、本番での集中力の高さを感じました。本番での子どもたちの鼓動が感じられる一番近いところで、子どもたちと一緒に過ごせるのは、音楽科の担当のとてもとてもうれしい瞬間だと感じております。

昨年6月、2週間という短い期間ではありましたが、こちらの学校で教育実習生として沢山の暖かい教えを頂きました。



その教えを胸に、そして子どもたちのキラキラした眼差しを大切にこれからもいろいろな面でごんばっていきたくと思っています。

今年「さる年」。元気に成長していく子どもたちを上から引っ張ったり、下から支えたりしていけるよう努めたいと思います。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

横須賀市立ろう学校
〒238-0023 横須賀市森崎5-13-1
TEL 046-834-1172 FAX 046-834-0096
学校HPも更新しています。ご覧ください。